

豊田町

地形概況

天竜川下流の左岸低地・磐田原台地からなり台地西縁は直線的な急崖で区分される。台地面には浅く幅の広い谷がみられ、やや起伏をもっている。低地は・僧川が南流して網状の旧河道・自然堤防・氾濫平野が交錯し、島のつく地名が多い。

地質概況

天竜川にそう低地は砂礫質の堆積層が分布しているが、その中でも旧河道の改変が進んだ。東部は磐田原台地で礫層が小笠山累層を基盤にして堆積している。直線的な崖が発達する台地面は浅い侵食谷が発達し、黄褐色のローム質粘土層が表層を覆っている。

気象概況

年平均気温は推定 15.5°Cと県内でも気温が高い地域で、特に冬は暖かく真冬日がほとんどないが、季節風が連続して吹くことが多い。年平均降水量は推定 2,100mm と県内ではやや少ないが、4月から8月にかけて全降水量の約半分に達する。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかった。当地では北地区で全壊2戸、半壊7戸、西地区で全壊11戸、半壊18戸、南地区で全壊47戸、半壊96戸の被害があった。池田で田からの噴水現象がみられた。震度は赤池・気子島・宮之一色・西之島で6、池田・豊田で5~6であった。
- 1891年10月28日（明治24年）濃尾地震 M=8.0
東海道筋見附町より浜松町に到る間諸処に破損有り。遠江で、家屋全壊32、半壊31、道路破損19、橋梁損落1、堤防崩壊24。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下で被害が大きかった。当地では天竜川沿いの池田は案外潰れ少なく、上本郷では17戸中11戸全壊、6戸半壊したといわれる。震度は上本郷で6~7、池田で6であった。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4
全県下で被害が大きかった。当地の状況は、井通村では大井通堤が崩れ、井堀埋り、田畑や道路に地割れができた。気子島では倒壊家屋7戸を生じたという。震度は気子島で6である。

災害事例 台風

- 1914年8月29日（大正3年）
29日午後から暴風雨となり、豊田で日雨量312mmに達した。
- 1910年8月7日（明治43年）
全県下特に中・西部で被害が大きかった。日雨量は、7日78mm、8日161mm、9日290mm、10日121mm、計650mmに達した。

- 1868年8月30日（明治元年）
天竜川の堤防が決壊して、掛塚では50戸流失、大塚村・西堀村などで被害が大きかった。立野西之島でも破堤したが大事に至らなかった。
- 1855年9月8日（安政2年）
七蔵新田村池田村で天竜川堤防百余間決壊し小立野村西之島村まで30日も浸水した。
- 1850年8月28日（嘉永3年）
富田村堤防42間決壊し40日余浸水した。常光村・末島村でも破堤した。
- 1828年8月10日（文政11年）
この日の大風雨で翌日匂坂中村森本村中ノ町村一色村で天竜川の堤防決壊し、古今未曾有の大洪水となる。
- 1816年8月26日（文化13年）
天竜川大洪水一色村堤防決壊し10日間の川止めとなる。
- 1705年8月17日（宝永2年）
天竜川大洪水、二俣で屋根まで浸水。瀬崎村で全戸流出。